

# 笑顔 咲かせる人

vol.27

利用者と目標に向かって歩む

このコラムは福祉の職場で働く人を紹介し、仕事や人の魅力を伝えます。  
今回登場するのは、入職22年目の稲川さん。  
やりがいや今後の抱負について聞きました。



社会福祉法人ひびき福祉会  
ハイワークひびき  
いながわ たかし  
主任 稲川 崇史さん

現在は主任として、利用者支援全般とお菓子の品質管理、取引先の獲得や調整を行っています。  
利用者が初めてお給料をもらいようころんでいる姿や仕事でできることが増えていくことで自信をつけ、仕事以外でも自分の思いを自ら伝えることができる。  
姿など、利用者の

## \*知らない世界への興味

高校生の時、祖母を介護する介護職員を見て福祉に関心を持ち、大学卒業後は介護老人保健施設で働きました。就職後、知人にすすめられたボランティアで障がい福祉に出会いました。重度障がいのある方への介助などこれまで知らなかった世界に興味を持ち、お菓子の製造・販売で、高い工賃達成をめざす就労継続支援B型事業所のハイワークひびきに転職しました。

## \*できた!!を共有

成長と変化にやりがいを感じます。  
大口の注文が入ったときは、利用者と職員一丸となって働きます。  
同じ目標に向かって頑張り、納品できた時のよこごびをみんなで共有できる瞬間が楽しいです。

## \*失敗を恐れずチャレンジ

入職後、苦労したのはお菓子作り。知識も経験もない中で、先輩職員や利用者から教わりながら、必死で技術を習得しました。今でも、取引先に求められるクオリティの高いお菓子の製造技術を学び、利用者にわかりやすく伝える努力をしています。

## \*目標達成をめざす

より高い工賃を達成するためには、一人ひとりの力量をあげることが重要です。今後は、コロナ禍で中止になっていた旅行にみんなで行き、リフレッシュしながら、目標達成に向けて、利用者とともに頑張っていきたいです。

ふくしを巡る

No.15

## 歴史探訪

### 弱き者の友たれ

昨年12月に行われた民生委員・児童委員の一斉改選。今回は、民生委員制度の前身である大阪の方面委員制度の生みの親、小河滋次郎を紹介するぞい。

滋次郎の生まれた金

子家は医療の家系。人々大切に育てられたんじや。「僕の運命は弱き者に寄り添う人生だった」と後年振りカエルように、「弱き者の友たれ」という精神を若い頃からもっていたぞい。

滋次郎も医学を学ぼうと慶應義塾



小河滋次郎の功績を讃える銅像が上田城跡公園(長野県上田市)に建立されています。

学部でのドイツ書の翻訳をきっかけに監獄学の道へ。内務省へ入職し、監獄制度の改良に大きな役割を果たしたんじや。  
大正2(1913)年、滋次郎が内務省監獄課長の時に監獄局長だった方から「救済事業指導嘱託」として大阪に招かれ、「救済事業研究会」を創設。

大正6(1917)年に、米騒動が全国各地に広がり、大阪でも発生。市民の道徳的な生活を確保するため、滋次郎は、大阪府知事の林市蔵から方面委員の基礎となる規程作成を依頼されたんじや。

その中で、小学校通学区を担当区域とし、地域の世話好きの人を任命するなど、大阪の方面委員制度確立へ尽力。一人ひとりの困窮した状況を調べ、その対策を立てる「社会測量」を重視したぞい。

方面委員の趣意書には、「我々委員は社会のため人道のため弱き人や不仕合せな人達の味方となって出来るだけ大馬の労を惜しまぬ覚悟」と記載されているんじや。

「弱き者の友たれ」という精神を買ったことが、今の民生委員制度につながっているのう。

(上田市・小河滋次郎博士顕彰会 協力)



ク口福